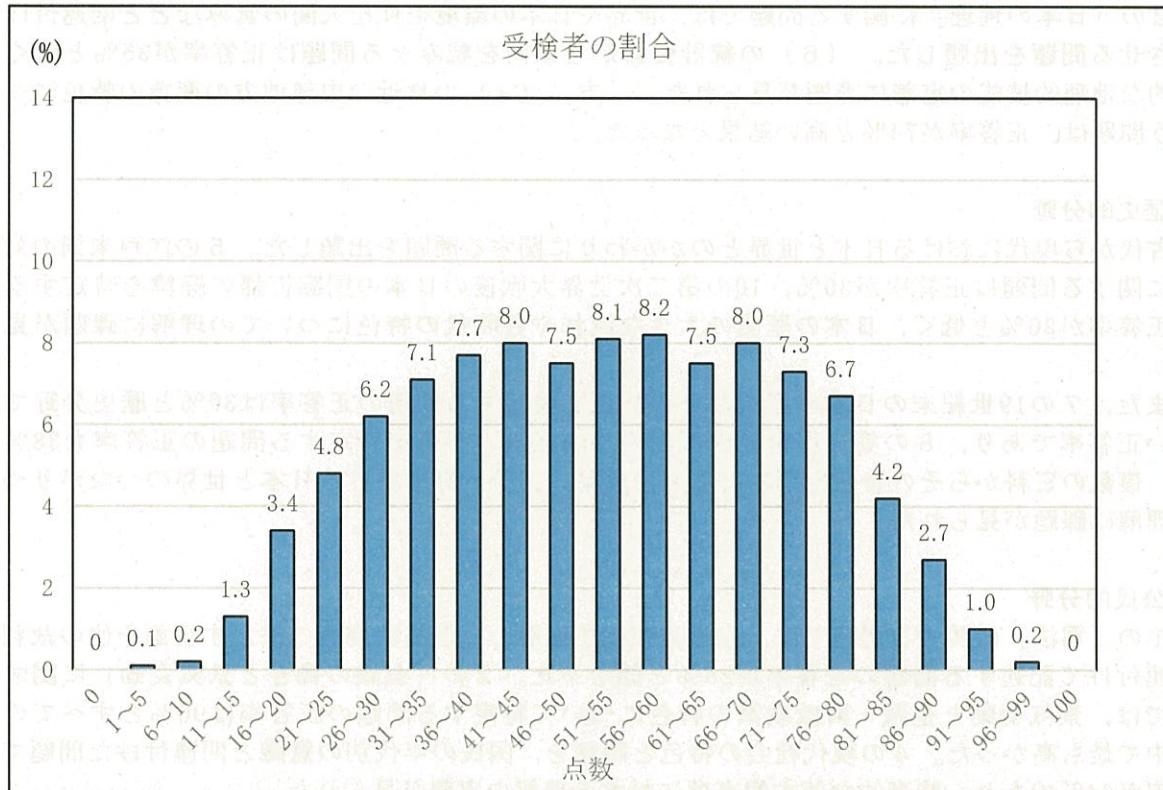


○ 社会

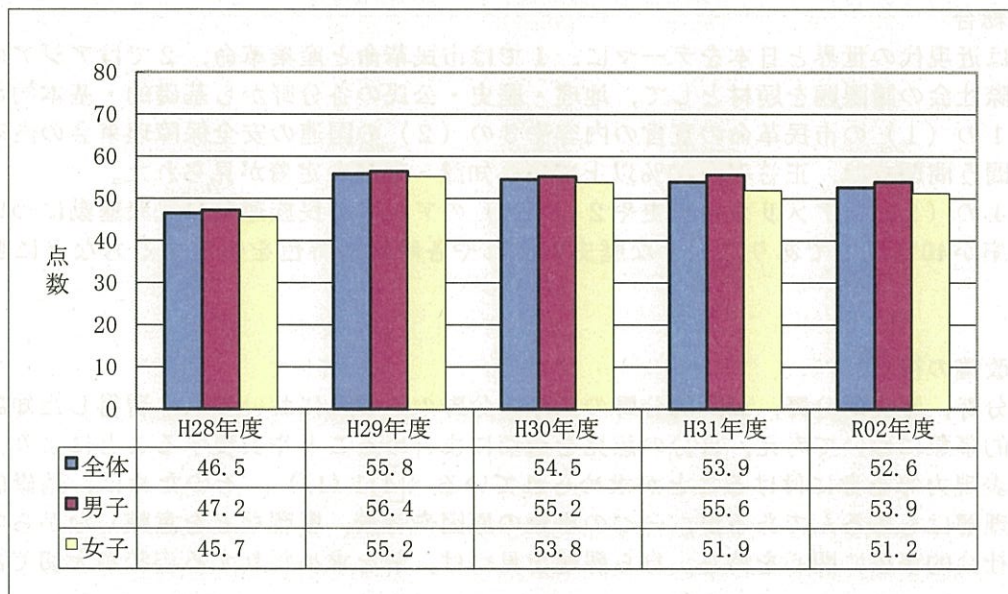
1 出題のねらい、配慮事項

- ① 中学校における地理的分野，歴史的分野，公民的分野の三つの分野にわたって，基礎的・基本的な学力が定着しているかを検査した。
- ② 地図，図，表，グラフなどの資料を活用して，多面的・多角的に思考したり，判断したり，表現する力を問うようにした。
- ③ 中学校学習指導要領の趣旨に基づいた出題とするとともに，時事的な事項に関する題材をできるだけ取り入れるように配慮した。

2 得点別に見た度数分布



3 平均点の推移



4 大問別の内容と調査結果の分析

大問の構成は、例年と変わらない。全体を通じて、定められた条件の中で表現する問題については改善が見られたが、複数の資料を用いたり、図やグラフを読み取って判断したり、自分の言葉で表現することについては課題が残る。また、基礎的・基本的な知識を率直に問う問題（空欄補充や一問一答形式）については正答率に偏りがあり、学習内容が定着に至っていない点が見受けられる。

1 地理的分野

1の「世界の地理」に関する問題では、世界や日本の地域的特色を様々な面から大観させる問題を出題した。(3)の世界の主な国々の名称と位置を理解し、国の首都を記述する問題の正答率がすべての正答率の中で10%と最も低かった。一方、(5)の南アメリカ州の地域的特色を理解し、農業に関する語句を記述する問題は正答率が80%であった。

2の「日本の地理」に関する問題では、世界や日本の環境条件を人間の営みなどに関連付けて考察させる問題を出題した。(6)の統計資料から傾向を読みとる問題は正答率が35%と低く、基本的な地理的技能の定着に課題が見られた。一方、(4)の身近な中部地方の産業の特色について問う問題は、正答率が74%と高い結果となった。

2 歴史的分野

古代から現代における日本と世界とのかかわりに関する問題を出題した。5の江戸末期の対外関係に関する問題は正答率が36%、10の第二次世界大戦後の日本の国際復帰の経緯を特定する問題の正答率が36%と低く、日本の歴史の大きな流れや各時代の特色についての理解に課題が見られた。

また、7の19世紀末の日本の産業革命の特色を特定する問題の正答率は30%と歴史分野で最も低い正答率であり、8の第一次世界大戦期の日本経済の特色を特定する問題の正答率も38%であり、複数の資料からその特色を読みとる力、政治・経済分野における日本と世界のつながりについての理解に課題が見られた。

3 公民的分野

1の「司法」に関する問題では、違憲審査権を理解し、最高裁判所の果たす役割を他の裁判所と関連付けて記述する問題の正答率が28%と低かった。2の「金融の働きと景気変動」に関する問題では、景気変動と金融・財政政策の特色について特定する問題の正答率は96%とすべての問題の中で最も高かった。4の現代社会の特色と課題を、国民の年代別の意識と関連付けた問題では正答率が64%であり、時事的な基本的事項に対する理解の定着が見られた。

4 三分野総合

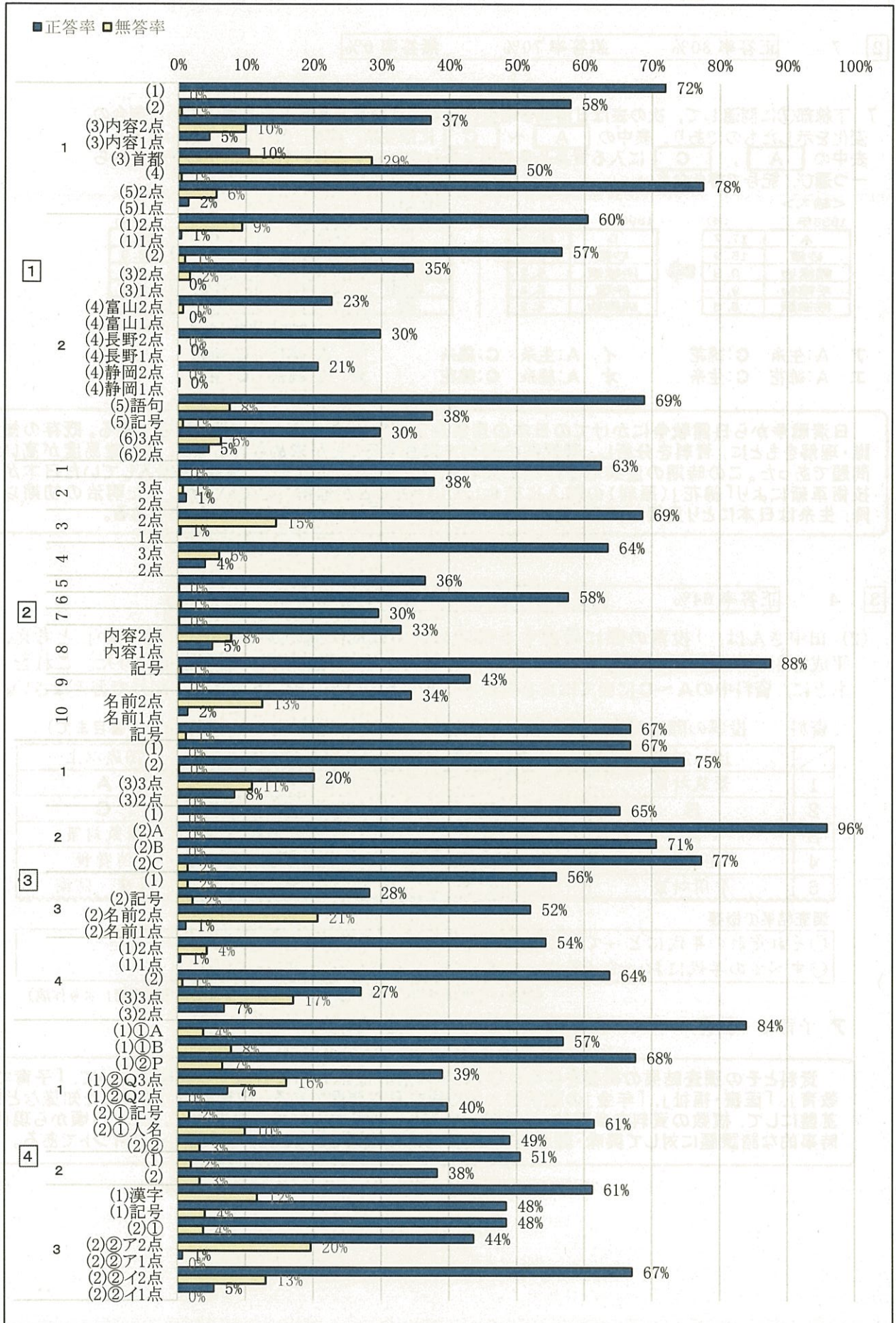
今年度は近現代の世界と日本をテーマに、1では市民革命と産業革命、2ではアジアの近代化、3では国際社会の諸課題を題材として、地理・歴史・公民の各分野から基礎的・基本的な内容を出題した。1の(1)の市民革命の宣言の内容や3の(2)の国連の安全保障理事会の内容の基本的な語句を問う問題では、正答率が70%以上であり知識・理解の定着が見られた。

一方、1の(2)のアメリカの歴史や2の(2)のアジアの民族運動や民衆運動についての問題では正答率が40%以下であり、大きな歴史の流れや各時代の特色を特定する力などに課題が見られた。

5 指導の改善の視点

地理的分野、歴史的分野、公民的分野の三つの分野のいずれにおいても、習得した知識を活用して、社会的事象について考え、自分の意見を適切にまとめることや表現することにより、思考力、判断力、表現力等を身に付けることが求められている(4)1(1)。そのために、基礎的・基本的な知識の理解はもちろんであるが、一つの事象の原因や背景、影響などを意識しながら学習したり、日頃から社会的事象に関心を持ち、自ら課題を見つけ、解を求めたりする姿勢が大切である。

6 令和2年度 正答率調査結果（社会）



7 ピックアップ 社会

2 7 正答率 30% 誤答率 70% 無答率 0%

7 下線部⑦に関連して、次の表は日清戦争前後の日本の主な貿易品目と貿易額に占める割合の変化を示したものであり、表中の **A** ~ **C** には生糸、綿花、綿糸のいずれかが入る。表中の **A** , **C** に入る貿易品目の組み合わせとして正しいものを、下のア~カから一つ選び、記号で書きなさい。

<輸入>		<輸出>	
1885年 (%)	1899年 (%)	1885年 (%)	1899年 (%)
A 17.7	B 28.2	C 35.1	C 29.1
砂糖 15.9	砂糖 8.0	緑茶 18.0	A 13.3
綿織物 9.8	機械類 6.2	水産物 6.9	絹織物 8.1
毛織物 9.1	鉄類 5.4	石炭 5.3	石炭 7.1
機械類 6.6	綿織物 4.2	銅 5.0	銅 5.4

(「日本貿易精覽」などより作成)

- ア A:生糸 C:綿花 イ A:生糸 C:綿糸 ウ A:綿花 C:綿糸
 エ A:綿花 C:生糸 オ A:綿糸 C:綿花 カ A:綿糸 C:生糸

日清戦争から日露戦争にかけての日本の産業及び経済の変化について問う問題である。既存の知識・理解をもとに、資料を分析し、選択肢の語句を精査することが求められるなど、少し難易度が高い問題であった。この時期の産業革命は軽工業の分野で進展し、これまで「綿糸」を輸入していた日本が技術革新により「綿花」(原料)の輸入に変化していったことが理解できているか、また明治の初期以降、生糸は日本にとり重要な商品・産業であったことが理解できているかがポイントである。

3 4 正答率 64% 誤答率 35% 無答率 1%

(2) 田中さんは、「投票の際に考慮する課題は、年代別に違いがあるのではないか」と考え、平成29年の衆議院議員総選挙にかかわる次の資料とその調査結果の概要を見つけた。これをもとに、資料中のA~Cに当てはまる項目を、下のア~ウから一つずつ選び、記号で書きなさい。

資料 投票の際に考慮した課題 (年代別) (高いものから順に上位5番目まで)

	18~29歳	30~49歳	50~69歳	70歳以上
1	景気対策	景気対策	A	A
2	B	B	C	C
3	A	A	景気対策	景気対策
4	消費税	C	消費税	消費税
5	雇用対策	消費税	B	外交・防衛

調査結果の概要

- それぞれの年代にとって、より身近な課題が上位になっている。
- すべての年代において「医療・介護」は、「年金」を上回っている。

(明るい選挙推進協会「第48回衆議院議員総選挙全国意識調査」より作成)

- ア 子育て・教育 イ 医療・介護 ウ 年金

資料とその調査結果の概要を参考にして、年代別の投票の際に考慮する課題について、「子育て・教育」、「医療・福祉」、「年金」の選択肢から適語を選ぶ問題である。授業の中で習得した知識などを基盤にして、複数の資料を多面的・多角的に考察し、判断する力が必要である。また、日頃から現代の時事的な諸課題に対して興味・関心を持ち、主体的に理解しようと努めているかもポイントである。

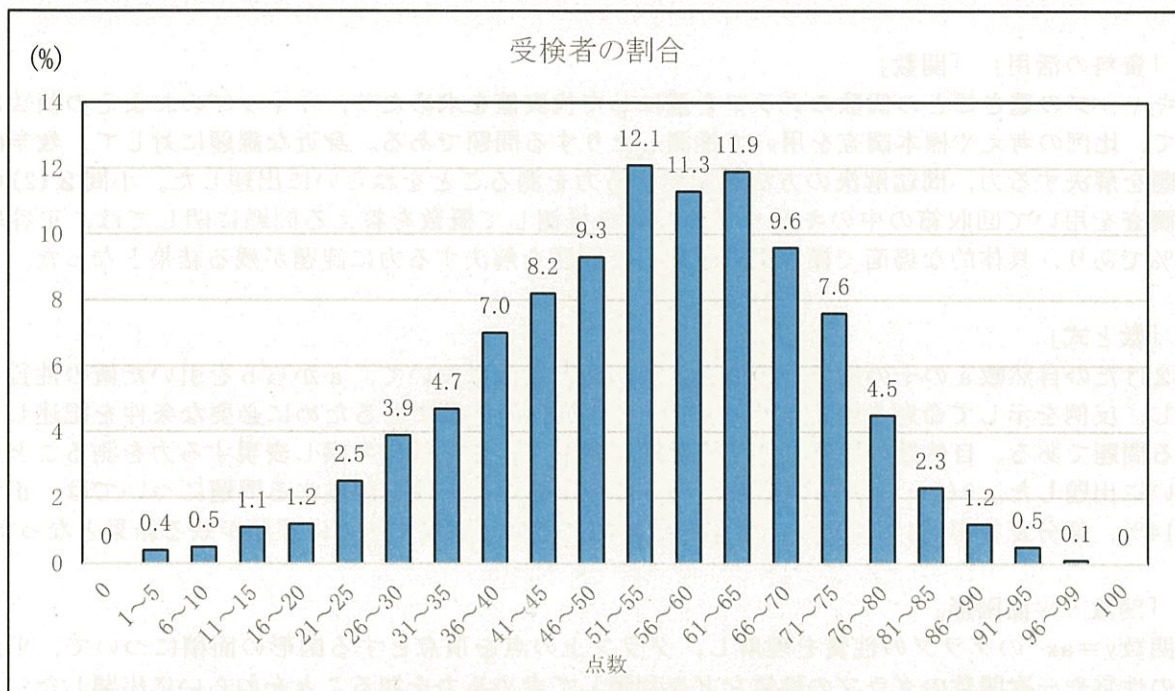
○ 数 学

1 出題のねらい、配慮事項

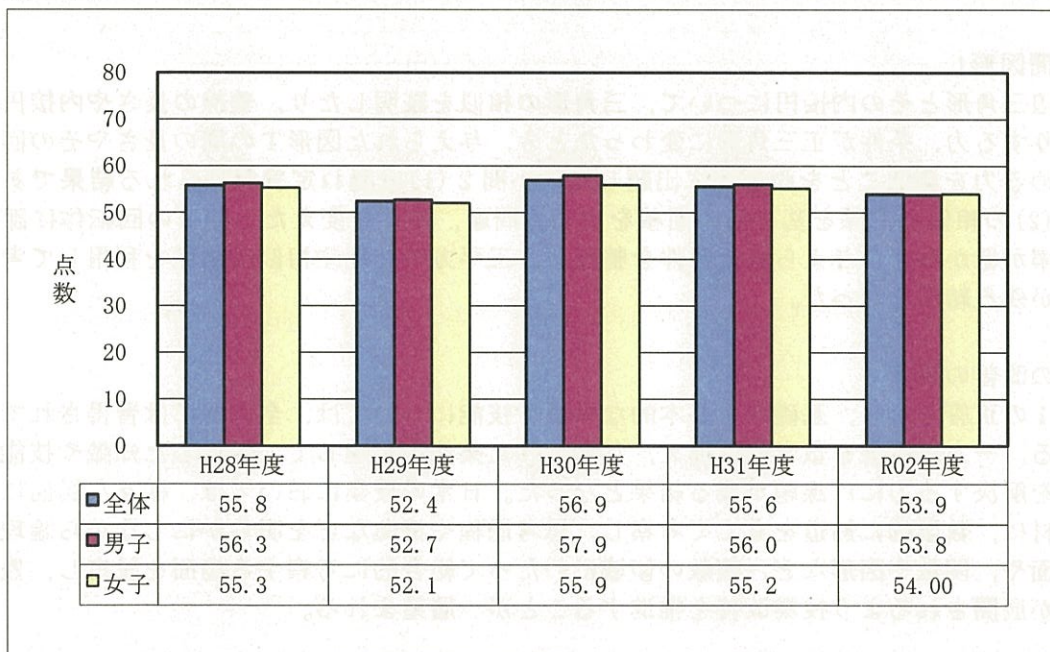
数と式・図形・関数・資料の活用の各領域にわたって、基礎的な概念・原理・法則の理解や、数学的に表現し処理する能力の把握に重点を置きながら、事象を数理的に考察する能力や数学を活用する態度が検査できるよう、次の点に配慮して出題した。

- ① 身近な課題に対して、主体的に解決する力が検査できるようにした。
- ② 知識や技能を活用して、問題を解決する力が検査できるようにした。
- ③ 複数の領域にわたって、総合的に考える力が検査できるようにした。
- ④ 思考過程や根拠などを論理的に説明できる力が検査できるようにした。

2 得点別に見た度数分布



3 平均点の推移



4 大問別の内容と調査結果の分析

1 「数と式の四則」

基礎的・基本的な数式の処理をねらいに出題した。正答率は比較的高く、基本的な計算処理は十分定着していると考えられる。特に、「根号を含む式の加法」や「単項式の乗除」においては過去の正答率との比較においても高い正答率であり、十分な定着がみられる結果であった。

2 「基礎的事項」

2次方程式、作図、比例の関係、確率、図形の性質などの内容において基本的な数学的な技能や知識・理解を検査する問題を出題した。図形の移動を基に角度を求める問題においては十分な定着がみられる結果であったが、2辺までの距離が等しい点を作図によって求める問題や確率を求める問題、円周角と中心角の関係を基に角度を求める問題ではやや課題が残る結果となった。

3 「資料の活用」「関数」

キャップの重さごとの個数のグラフを基にして代表値を求めたり、キャップのおよその個数について、比例の考えや標本調査を用いて推測したりする問題である。身近な課題に対して、数学的に問題を解決する力、問題解決の方法を記述する力を測ることをねらいに出題した。小問2(2)の標本調査を用いて回収箱の中のキャップの個数を推測して概数を答える問題に関しては、正答率が14%であり、具体的な場面で標本調査を用いて問題を解決する力に課題が残る結果となった。

4 「数と式」

2けたの自然数 a の十の位と一の位を入れかえた数 b において、 a から b を引いた値の性質を理解し、反例を示して命題を否定したり、 $9(x-y)$ が18の倍数になるために必要な条件を記述したりする問題である。自然数の性質に関する課題に対して、数学的に考察し表現する力を測ることをねらいに出題した。 $9(x-y)$ が18の倍数になるために必要な条件を記述する問題については、正答率が14%、部分正答率が1%であり、事象を数学的に考察し表現する力に課題が残る結果となった。

5 「関数・平面図形」

関数 $y=ax^2$ のグラフの性質を理解し、グラフ上の点を頂点とする図形の面積について、平面図形の性質や一次関数のグラフの性質などを利用して求める力を測ることをねらいに出題した。小問2、小問3(2)の座標平面上の図形の面積に関する問題については、正答率がそれぞれ17%、2%であり、座標平面上の図形の性質について数学的に考察し処理する力に課題が残る結果となった。

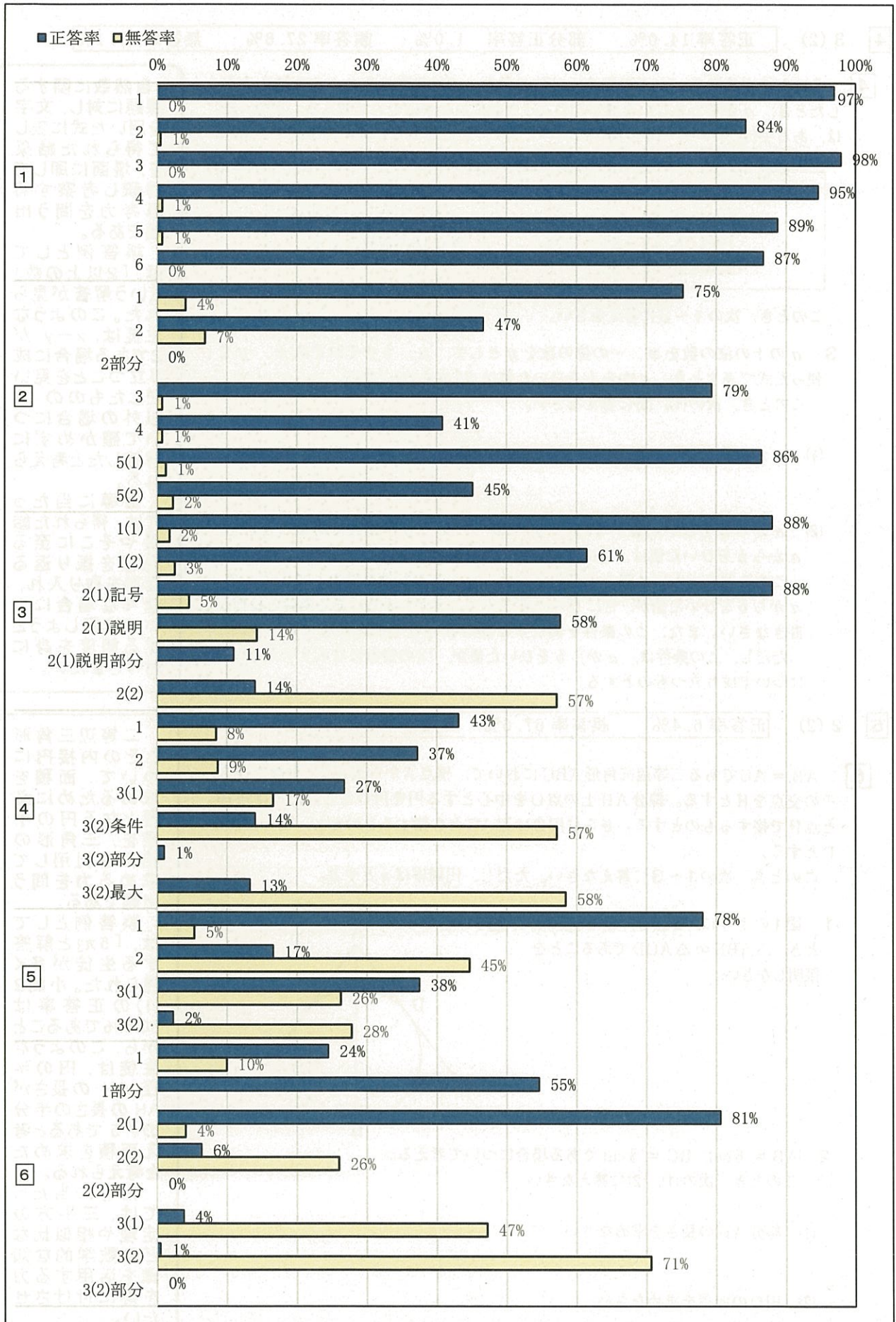
6 「空間図形」

二等辺三角形とその内接円について、三角形の相似を証明したり、垂線の長さや内接円の面積を求めたりする力、条件が正三角形に変わったとき、与えられた図形 T の周の長さやその回転体の体積を求める力を測ることをねらいに出題した。小問2(1)は概ね定着が見られる結果であったが、小問2(2)の相似の関係を基に円の面積を求める問題、条件を変えた小問3の回転体に課する問題は正答率が低かった。与えられた条件を整理し、三平方の定理や相似の関係を基に考察する力に課題が残る結果となった。

5 指導の改善の視点

大問1の正答率から、基礎的・基本的な知識や技能については、全体的には習得されていると考えられる。一方、事象を数学的に捉え、与えられた条件を整理して、習得した知識や技能を活用して問題を解決する力には課題が残る結果となった。日常の授業においては、様々な場面における事象を題材に、数学的に筋道を立てて考察し、思考過程や根拠などを明らかにしながら論理的に説明する場面や、関数や図形など、複数の領域にわたって総合的に考察する場面を設定し、豊かな数学的活動が展開されるよう授業改善を推進することが一層望まれる。

6 令和2年度 正答率調査結果 (数学)



4 3 (2) 正答率 14.0% 部分正答率 1.0% 誤答率 27.8% 無答率 57.1%

4 2けたの自然数を a 、その数の十の位の数と一の位の数を入れかえた数を b としたとき、 a から b をひいた値がどのような数になるかについて考える。次のメモは、ある生徒が、いくつかの場合について調べ、それをもとに立てた予想である。

<p>メモ</p> <p>a の値が 31 のとき、$31 - 13 = 18$</p> <p>40 のとき、$40 - 4 = 36$</p> <p>19 のとき、$19 - 91 = -72$</p> <p>55 のとき、$55 - 55 = 0$</p>	<p>予想</p> <p>a から b をひいた値は、常に 18 の倍数になる。</p>
---	--

このとき、次の 1~3 に答えなさい。

3 a の十の位の数を x 、一の位の数を y として、 a 、 b をそれぞれ x 、 y を使った式で表すとき、 a から b をひいた値は $9(x - y)$ となる。

このとき、次の (1)、(2) に答えなさい。

(1) a から b をひいた値が 54、 x の値が 8 であるとき、 b の値を求めなさい。

(2) a から b をひいた値が $9(x - y)$ であり、 $x - y$ が整数であることから、 a から b をひいた値は、常に 9 の倍数になるといえる。

このことをもとにメモを見直すと、 $x - y$ がある条件を満たしているとき、 a から b をひいた値が、常に 18 の倍数になることがわかる。ある条件とは何か書きなさい。また、この条件を満たすときの $x - y$ の最大値を求めなさい。

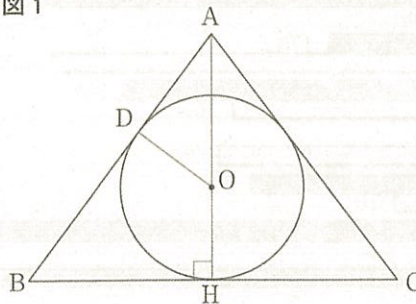
ただし、この条件は、 a から b をひいた値が、18 の倍数になるすべての場合について成り立つものとする。

6 2 (2) 正答率 6.4% 誤答率 67.6% 無答率 26.0%

6 $AB = AC$ である二等辺三角形 ABC において、頂点 A から辺 BC に垂線をひき、その交点を H とする。線分 AH 上の点 O を中心とする円を円 O とし、円 O は辺 BC と点 H で接するものとする。さらに円 O は辺 AB とも接するものとし、その接点を D とする。

このとき、次の 1~3 に答えなさい。ただし、円周率は π とする。

1 図1のように、2点 O 、 D を結んだとき、 $\triangle ABH \sim \triangle AOD$ であることを証明しなさい。



2 $AB = 6$ cm、 $BC = 8$ cm である場合について考える。

このとき、次の (1)、(2) に答えなさい。

(1) 線分 AH の長さを求めなさい。

(2) 円 O の面積を求めなさい。

自然数に関する課題に対し、文字を用いた式に表して得られた結果を、場面に即して解釈し考察する思考力を問う出題である。

誤答例としては、「2以上の数」という解答が見られた。このような生徒は、 $x - y$ が 2 である場合に成り立つことを見いだしたものの、2 以外の場合について確かめずに解答したと考えられる。

指導に当たっては、得られた結果やそこに至る過程を振り返る活動を取り入れ、様々な場合について検証しようとする態度を身に付けさせたい。

二等辺三角形とその内接円について、面積を求めるために必要となる円の半径を、三角形の相似を利用して求める力を問う出題である。

誤答例としては、「 5π 」と解答する生徒が多く見られた。小問 2 (1) の正答率は 80.6% であることから、このような生徒は、円の半径 OH の長さが AH の長さの半分の $\sqrt{5}$ であると考え面積を求めたと考えられる。

指導に当たっては、三平方の定理や相似比などの数学的な知識を活用する力を身に付けさせたい。